

| | | | |
|--|---|---------------|----------|
| 科目名：基礎看護学実習Ⅰ (対象理解と日常生活援助) 単位数：1 | 担当者(実務経験)： 専任教員(臨床実務経験有) 臨地実習指導者(臨床看護師) | 総時間数：45 時間 | 時期：1 年後期 |
| 科目目標： 1 健康障害をもち、入院療養生活を送る対象が理解できる。 2 対象とコミュニケーションを図ることができる。 3 対象に行われている看護とその必要性が理解できる。 4 対象の状態に応じた看護技術を実践することができる。 5 実習を通しての学びと自己の課題を明確にできる。 6 看護を実践する者としての倫理に基づく行動をとることができる。 | | | |
| 授業内容 | | 授業方法 | 場所 |
| 1 対象を理解するために必要な学習ができる。 2 対象に必要な情報を収集することができる。 3 フィジカルイグザミネーションを用いて情報を収集することができる。 4 対象の生活環境について情報を収集することができる。 5 入院に伴う環境の変化について記述することができる。 6 対象に合わせたコミュニケーションをとることができる。 7 対象とのコミュニケーションを振り返りかえることができる。 8 対象に行われている看護援助の内容とその必要性を考えることができる。 9 対象に行われている看護援助場面に参加できる。 10 対象のバイタルサインの測定ができる。 11 対象に合わせた快適な療養環境の整備ができる。 12 適切なタイミングと方法でスタンダードプリコーションに基づく手洗いができる。 13 実習を通しての学びを述べるができる。 14 専門職を目指す看護学生としての自己の課題を明確にできる。 15 実習生としてふさわしい態度で取り組むことができる。 16 主体的に報告・連絡・相談ができる。 17 自己の心身のコントロールができる。 18 建設的な姿勢で指導を受け、指導を生かして実習に取り組むことができる。 19 カンファレンスにおいて意見交換し、主体的に学びを深めることができる。 20 個人情報を守ることができる。 | | 病院実習 45 時間 | 岡山労災病院 |
| 評価方法 実習終了後に実習評価表のに基づき、実習内容および記録より評価する。 | | | |
| 評価基準 60 点以上で合格とする。 | | | |

| | | | |
|--|---|---------------|----------|
| 科目名：基礎看護学実習Ⅱ 単位数：2 | 担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師） | 総時間数：90 時間 | 時期：2 年後期 |
| 科目目標： 1 受け持つ対象を統合的に理解できる。 2 受け持つ対象の看護診断（看護問題）ができる。 3 看護計画の立案ができる。 4 看護実践ができる。 5 看護記録を書くことができる。 6 実習を通しての学びと自己の課題が明確にできる。 7 看護を実践する者としての倫理に基づく行動をとることができる。 | | | |
| 授業内容 | | 授業方法 | 場所 |
| 1 受け持ち対象を理解に必要な情報を収集できる。 2 情報を系統的に整理し、領域ごとに解釈ができる。 3 病態関連図を用いて、共同問題を明確にできる。 4 全体関連図を用いて、仮診断（看護問題）を導き出すことができる。 5 仮診断（看護問題）の根拠づけを行い、確定診断ができる。 6 対象に合わせた問題の優先順位が決定できる。 7 看護診断（看護問題）を解決するための期待される成果が設定できる。 8 期待される成果を達成するための看護計画が立案できる。 9 対象に必要な看護技術手順が作成できる。 10 看護計画・看護技術手順に基づいた看護実践ができる。 11 対象の安全・安楽、自立を考慮した看護実践ができる。 12 対象の状態、実践した看護とその結果が記録できる。 13 適切なタイミングで看護計画の評価ができる。 14 実習を通しての学びを述べることができる。 15 専門職を目指す看護学生としての自己の課題を明確にできる。 16 実習生としてふさわしい態度で取り組むことができる。 17 主体的に報告・連絡・相談ができる。 18 自己の心身のコントロールができる。 19 建設的な姿勢で指導を受け、指導を生かして実習に取り組むことができる。 20 カンファレンスにおいて意見交換し、主体的に学びを深めることができる。 | | 病院実習 90 時間 | 岡山労災病院 |
| 評価方法 実習終了後に実習評価表の基づき、実習内容および記録より評価する。 | | | |
| 評価基準 60 点以上で合格とする。 | | | |

51 回生 シラバス

| | | | |
|---|---------------------------------|---------------|---|
| 科目名：地域・在宅看護論実習Ⅰ (施設看護) 単位数：2 | 担当者(実務経験)： 専任教員 (臨床実務経験有) | 総時間数：90 時間 | 時期：1 年次前期 |
| 科目目標： 1 生活の場である施設について理解できる。 2 健康障害をもち、地域(施設)で療養生活を送る利用者を理解できる。 3 障害や老化とともに生活する利用者の持てる力(強み)を引き出す支援を理解できる。 4 就労支援の実際と人々にとって「働くこと」の意味について自己の考えを述べるができる。 5 生活介護・通所介護の実際について理解することができる。 6 実習を通しての学びと自己の課題を述べるができる。 7 学習者として望ましい態度で実習することができる。 | | | |
| 授業内容 | | 授業方法 | 場所 |
| 【障害者支援施設・高齢者施設】 1 生活の場である施設の法的根拠と目的・サービスについて述べるができる。 2 施設の利用者の特徴について述べるができる。 3 利用者の1日の生活リズム、生活習慣について述べるができる。 4 利用者とのコミュニケーションを通して利用者の生活に対する思いや楽しさについて述べるができる。 5 利用者とのコミュニケーションや生活状況の実際を知ることで利用者が日常生活を送るうえでのニーズ(困っていること)を述べるができる。 6 利用者の健康及び身体の障害について述べるができる。 7 利用者の生活に必要な持てる力(強み)を述べるができる。 8 利用者の持てる力(強み)を引き出す支援の実際を述べるができる。 【就労継続支援】 9 就労継続支援A型、B型の法的根拠と目的・サービスについて述べるができる。 10 利用者の就労状況の実際と就労に対する思いについて述べるができる。 11 就労を継続するための支援の実際について述べるができる。 12 人々にとって「働くこと」の意味について自己の考えを述べるができる。 | | 施設実習 90 時間 | 障害者施設：泉 学園 介護老人福祉 施設：若宮園・ 若宮の杜 介護老人保健 施設：若宮老人 保健センター 就 労 継 続 支 援：ネイチャー ファーム・桑野 ワークプラザ 生活介護：障害 者デイセンタ ーさくら・な ず な、桑野フレ ンドリーハウ ス 通所介護：若宮 園デイサービ スセンター |

| | | |
|---|--|--|
| <p>【生活介護・通所介護】</p> <p>13 生活介護・通所介護の法的根拠と目的・サービスについて述べるができる。</p> <p>14 利用者の生活介護・通所介護での1日の活動状況と生活支援の実際を述べるができる。</p> <p>15 居宅（生活介護・通所介護以外）での生活の様子と支援の実際について述べるができる。</p> <p>16 利用者とのコミュニケーションを通して利用者のサービスや生活に対する思いや楽しみについて述べるができる。</p> <p>【まとめ】</p> <p>17 地域で療養する人々の理解と、「生活」を支える支援について述べるができる。</p> <p>18 実習の学びから自己の課題を明確にできる。</p> <p>【態度】</p> <p>19 相手を尊重した態度をとることができる。</p> <p>20 守秘義務を遵守することができる。</p> <p>21 主体的に学習できる。</p> <p>22 自己の心身の健康管理ができる。</p> | | |
| <p>評価方法 実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容および記録より評価する。</p> | | |